

平成25年度第8回 小高区地域協議会会議録

- 1 日 時：平成25年11月28日(木)
午後1時30分～午後4時04分
2 場 所：小高区役所 第3会議室(2階)

1 開 会 (地域振興課長)

2 地域協議会成立要件の確認

地域振興課長

- ・ 当日の委員数：15人
- ・ 出席した委員：13人(欠席委員2人)

【出席委員名】

島尾 清助、 鈴木 敬徳、 渡部 幸史、 佐藤 直美、
一 條 嘉明、 安部 あきこ、 齋藤 邦彦、 末 芳治、
阿部 治幸、 佐藤 良一、 齋藤 幸子、 福崎 隆典、
後藤 素子

以上のことから、相馬郡小高町、同郡鹿島町及び原町市の廃置分合に伴う地域自治区の設置等に関する協議書第10(2)の規定に基づき、委員の過半数が出席していることにより、本協議会が成立していることを確認した。

3 . 会長あいさつ

島尾会長 (挨拶)

4 . 会議録署名人の指名

議長(島尾会長)

議事録署名人として、齋藤 邦彦 委員、阿部 治幸 委員を指名します。

(説明職員)	小高区役所長	村田 博
	小高区地域振興課長	安部 克己
	同 庶務係長	佐藤 浩一
	同 振興係主査	青田 吉彦(書記)
	復興企画部理事	渡部 克啓
	同 企画課企画係 主査	藤原 道夫

5. 議 事

(1) 報告事項

第7回地域協議会会議録の確認について

- ・会議録案について確認し、了承を得た。

南相馬市指定管理者制度導入計画について

企画課担当（資料により説明）

福崎委員 今回の計画と職員の定数管理は連動するのか。

企画課担当 今回の計画が直接定員管理と関係するものではありません。行政が施設の直接管理をするのは限界があるため、指定管理者制度を導入するものです。

福崎委員 現在、職員が直接、施設を管理していたところで、指定管理者制度を導入した場合、将来的には職員の削減になる。

復興企画部理事 指定管理者制度と職員定数管理がリンクしないということでは無いが、将来の人口減少を踏まえ、負担軽減を図りながらサービスの維持を図るために、指定管理者制度の導入が有効であるため導入をするものです。

末委員 資料で「検討中」となっている津波被災施設に、市民が利用する施設が多いが、今後の復旧はどう考えているのか。

企画課担当 今のところ、まだ、復旧について方向性は固まっていません。これから、地域住民のご意見をお聞きしながら、今後の方向性を決定していきたい。

末委員 津波被災施設については、別の場所での代替施設を検討して欲しい。

企画課担当 皆さまのご意見を聞いた中で、別の場所での設置というご意見が多いときは、別の場所での設置という可能性は大いにあるかと思えます。

議長（島尾会長） 今回の計画にある施設で、特に小高区の被災箇所は何件ですか。

企画課担当 村上のふれあいキャンプ場、村上キャンプ場が震災による指定解除、休止中が老人福祉センターほかスポーツ施設が5施設です。

議長（島尾会長） これらの施設については、復興の目処が付いたときに、再度指定管理の対象となるということですか。

企画課担当 はい。

佐藤委員 検討中となっている小高病院について、今後の方向性をお聞きします。

復興企画部理事 小高病院については、リハビリ棟を活用して、来年4月1日から外来診療を行うこととしています。今後の小高区民の帰還状況と区内の医療機関の再開状況を含めて、入院施設の必要状況と小高病院の今後のあり方を調整していくこととしています。

鈴木敬徳委員 指定先の選定条件はどのようになりますか。また、その条件を満たした団体はどの位あるのか。

企画課担当 指定管理の対象としては、団体であることが条件で、その他の必須

条件は無い。指定に際しては、市で設ける選定審査委員会の中で、運営方針等プレゼンテーションをしていただき、それを審査して、指定管理者を決めてきます。現在、11団体に対して38施設の指定管理をお願いしています。

阿部委員 今後、民営化などを検討となっている保育所6ヶ所はどこですか。

企画課担当 おだか保育園、かしま保育園、かみまの保育園、あずま保育園、なかまち保育園、さくらい保育園です。

議長(島尾会長) 帰還した人に医療を提供するというのですが、一歩進んで、帰還促進のために医療整備が必要という姿勢について、市の考えはどうか。

復興企画部理事 小高にあった個人医院にも積極的に再開のお願いをしているが、戻ってくる人の数などで、難しい。補助金など、再開を支援する方策を今後進めていきたい。一方、南相馬市の置かれている現状では医師不足、看護師不足で、原町区の医療機関で再開できないところも相当あります。そのような中で、小高病院だけということではなく、南相馬市全体の医療確保を考えていなければならない状況です。

議長(島尾会長) 原町区内から、小高病院が再開することで赤字になるという懸念の声が聞こえるが、地域医療を確保する上で、小高病院の果たす役割を考えて欲しい。また、小高病院の再開で看護師が減るということだけでなく、小高病院から総合病院に移った看護師を戻してもらおうという考え方をして欲しい。

復興企画部理事 地域医療の確保については、一次医療と二次医療に分け、入院などの二次医療は総合病院等が担うこととしています。地域医療の在り方として地域全体で補うという方策を考えなくてはいけない。小高に全てを置くということは、現実的には無理です。地域で役割を分担しながら対応していかなくてはいけない。一方で、小高区民の安心安全確保は費用対効果だけでは語れません。

鈴木敬徳委員 地元出身の医師に協力をお願いできないか。

復興企画部理事 地元出身の医師には積極的に働きかけをしており、中には戻ってくるという医師もおられます。

議長(島尾会長) 次に移ります。

(2) 協議事項

避難指示の解除について

福崎委員 今回の解除目標時期設定まで、市役所内部ではどのような検討をしてきたか。

復興企画部理事 生活再建の立場から、解除目標時期を示すことが必要という市民からの意見が多かったことから、市役所内部では、時期を早く示す必要があると考えてきたところです。

末委員 今回の目標時期設定は市で方針を決めたもので、行政区や地区単位ごと市民の意見を聞いて欲しい。

復興企画部理事 今回のように皆さんの意見を聞きながら、今後、市民説明会や

市外に避難されている方にも説明して、全体の合意を得ながら進めていきたい。
佐藤良一委員 今後の圃場整備は受け皿である農業者の確保が前提と言われているが、小高区の農業者の8割が離農希望という状況もあり結論が出ていない。帰還するためには、就労の場の一つとして営農再開も必要なので、圃場整備については総合的に考えて、見える形で今後の計画を示して欲しい。

復興企画部理事 圃場整備は今後の小高を再生するため重要と思う。避難している地権者に集まっていただくことはなかなか難しいところですが、圃場整備については地権者と営農の意思も確認しながら、丁寧に協議をしていきたいと思っています。

佐藤良一委員 24年の試験田に比べ25年の試験田の線量が上がり、180 Bq/kg 出たということがあるので、丁寧に農地の除染もしていただかないと不安が残る。

復興企画部理事 米の実証栽培試験結果では、小高区でセシウムが100 Bq/kg を超える米が出ているが、まだ、要因が判明していない。去年はセシウムが出ていないところで、今年セシウムが出たところもあるが、研究機関と協力して原因を突き止めたい。

議長(島尾会長) 解除の前提である年間20 mSv について、以前は年間1 mSv と言っていたことと矛盾する。

復興企画部理事 年間1 mSv は長期的目標です。除染を行った後で、どうやったら線量を下げられるか検証をして、1 mSv を目標に進めていきたい。

議長(島尾会長) 平成28年4月の帰還時期までに、小高区の除染は、線量の低いところも含めて、全域実施するのか。

復興企画部理事 宅地については全域行います。

議長(島尾会長) 自宅の修繕や庭の整備なども含め、除染が終わってから復旧作業を行うため、解除時期については、除染後に復旧作業を行うための余裕期間が欲しいという住民の意見がある。

復興企画部理事 除染と並行して家の修繕等も進めていただければ考えています。

議長(島尾会長) アンケートで戻るかどうかわからないという人の理由の一位は除染に対する不安なので、市の責任で、読んで分かりやすい放射能と安全についての文章を示すべきである。

復興企画部理事 これまでも、国に、安全について、実証できる形で、周知するものを作ってほしいと要望してきました。また、市でも放射線について考え方の説明資料を作っているところです。

鈴木委員 震災前はどのくらい被ばくしていたのか。

復興企画部理事 南相馬市で年間0.4 mSv 位と思っています。放射能は国や地域によっても違います。また、震災前の米を測ってみると15 Bq/kg あった。現在の鹿島区の米の99%が25 Bq/kg 以下です。

鈴木委員 震災前でも、被ばくは0でないことを周知すべきだ。

復興企画部理事 国際線の飛行機で往復1 mSvを被ばくするという話もあり、そういうことも説明する必要があると考えています。

佐藤良一委員 避難指示解除に伴い、どの位移住期間を見してくれるのか。また、借り上げ住宅や仮設住宅からの退去させられることに心配をする人もいる。

復興企画部理事 避難指示解除になっても、仮設住宅入居継続の猶予期間が必要とは考えており、国に要望していきます。

齋藤邦彦委員 小中学校の再開の段取りはどうなっていますか。

復興企画部理事 当初は人口も少ないことから、基幹校、例えば小高中学校や小高小学校に集約して再開することになると考えています。

議長（島尾会長） 常磐線の再開時期はいつごろか。

復興企画部理事 当初は、避難指示解除前にも再開という話もあったのですが、現時点では、JRから解除と同時期と言われている。今後、長期特例宿泊にあわせて、来年8月開通を要望していく。

斉藤幸子委員 継続的に健康管理ができるようなシステムを市でも独自に行ってほしい。

復興企画部理事 国に対し、将来的に継続した健康管理をしっかりと取り組んでほしいと要望している。こども支援法ができて、こどもや避難者の健康管理についての指針が出された。今、ホールボディカウンターやガラスバッジといった形で行われているものが今後も無料でやっていくことや、何かあった時には医者への対応なども無料で行われるように要望していきます。

議長（島尾会長） 南相馬市指定管理者制度導入計画については終了します。

【休憩】

新年度事業提案について

【協議結果】末委員の提案による、「復興後の小高区の特産品をつくる」事業を地域協議会の提案とした。

その他

末委員 鹿島区に避難しているが、檜原線が復旧していないため不便をきたしている。

福崎委員 いわゆる県道大芦鹿島線ですが、以前に、相双建設事務所に再開について聞いたときは、平成24年9月までに開通するという回答はあったが、その後、復旧が進んでいない。

小高区役所長 確認して回答します。

末委員 鳩原小学校に建てられたプレハブは作業員宿舎ですか。

小高区役所長 現場事務所であり、宿泊はしません。

鈴木敬徳委員 パトロール隊で見回りの際、火気使用、電気使用の実態があるが、
どのような規制になっているか。

庶務係長 法律上、禁止はしていません。極力控えていただくようお願いをして
いるところです。

議長（島尾会長） 以上で閉会します。（終了 午後4時04分）

以上のとおり相違ありません。

会 長 島 尾 清 助

会議録署名人 齋 藤 邦 彦

会議録署名人 阿 部 治 幸